

会 議 録

| | | | | |
|--------------------|---|------|---------------|----|
| 会 議 名 | 令和6年度第2回東松山市幼児教育振興懇談会 | | | |
| 開 催 日 時 | 令和6年8月8日（木） | 開 会 | 午後3時30分 | |
| | | 閉 会 | 午後4時40分 | |
| 開 催 場 所 | 平野市民活動センター 会議室 | | | |
| 会 議 次 第 | 1 開会 2 あいさつ 3 議題 (1) 第1回幼保小三者連絡会の報告 (2) その他 4 閉会 | | | |
| 公開・非公開の別 | 公開 | 傍聴者数 | 0人 | |
| 非公開の理由 (非公開の場合) | | | | |
| 参加者出欠状況 | 巢立 佳宏 | 欠席 | 中村 昭司 | 出席 |
| | 小佐野 真紀 | 出席 | 竹内 千鶴子 | 出席 |
| | 峯 岩男 | 出席 | 眞秀 宏 | 出席 |
| | 二口 法子 | 欠席 | 狐塚 汐里 | 出席 |
| | 本嶋 郁美 | 出席 | | |
| 事 務 局 | 教育委員会教育長 吉澤 勲 | | 保育課 課長 阿部 康裕 | |
| | 学校教育課 副主幹 岩崎 慶一 | | 保育課 副課長 山崎 恵子 | |
| | | | | |

| | 顛 | 末 |
|--------|--|---|
| 1 開 会 | 事務局 | |
| 2 あいさつ | 東松山市教育委員会教育長 吉澤 勲 | |
| | 座長については、第1回東松山市幼児教育振興懇談会において、 峯岩男氏を選任済 会議録署名人に中村昭司氏、本嶋郁美氏を指名 | |
| 3 議 題 | <p>座 長 議題（1）第1回幼保小三者連絡会の報告について事務局から説明をお願いします。</p> <p>事務局 （説明）</p> <p>座 長 このことについて、御質問や御意見等がございましたらお願いします。</p> <p>全 員 （特になし）</p> <p>座 長 ないようですので、御承認いただいたということで進めさせていただきますが、本日は、公開授業に御参加いただいた先生方がお揃いですので、公開授業の感想や今後に向けてのご意見を頂戴できればと思います。まずは、7月1日の新明小学校からお願いします。</p> <p>狐塚氏 月曜日ということもあり、全体的に小学校の先生方の参加が少なく、私の研究協議班においても、小学校の先生がお一人しかおらず、小学校サイドのお話が少なく残念でしたが、多くの意見交換ができました。「小学校での授業内容がよくわかった。」「これまで、こども主体の保育でいいのか不安だったが、間違っていないことが確認できた。」など、日頃の保育を見直す機会となったようです。本日の資料のアンケート結果を見ても「物足りない」という意見がないので、満足度の高い事業であると感じました。</p> <p>峯 氏 今後は、開催日を月曜日以外で設定する必要があると思います。また、今後の幼保小三者連絡会の開催方法についてですが、本日の吉永先生の講演でもお話しされていたように、研究協議の場を交流だけではなく、もう一步踏み込んで具体的な意見交換へとしていく必要があると思います。</p> <p>竹内氏 当班には小学校の先生が2名おり、幼稚園、保育園側から</p> | |

| | |
|--|--|
| | <p>の質問に柔軟に対応してくださいました。全く字を教えていないという園に対しては、「小学校で一から教えるので大丈夫ですよ。」と仰っていただき安心できたようです。ですが、以前、小学校の先生に「45分間、椅子に座って集中できるようにしてほしい。」と言われたこともありました。それはまず無理なことであり、お互いに分かり合えていないことがまだまだあるので、小学校の先生に多く参加していただきたいと思いました。</p> <p>峯 氏 小学校就学前のこどもが45分間、集中することは神業ですので、机の配置、環境構成の工夫など、柔軟な対応が小学校に求められています。ただし、幼児教育側も小学校の教育課程を理解する必要もあり、互いに理解し合う時期にあると思います。</p> <p>次に、高坂小学校での公開授業についてお願いします。</p> <p>小佐野氏 当班には小学校の先生が数人いらっしゃって、協議の中でお互いの疑問が解消できたと思います。幼稚園の先生からは、主体的で対話的で深い学びについて、授業ではどう展開されていくのか具体的に見られるとよいとの意見がありました。</p> <p>狐塚氏 当班には、高坂小の1年担任の先生が2人いらっしゃいました。おひとは、こどもの主体性を大事に授業が進められていましたが、もうひとりの先生は「こどもの声を拾えていなかった。」と反省されていました。しかし、この気づきこそが大事なことだと思いました。本日の研修会を1年生になる先生方に視聴していただければ、先生の経験値による差なども縮まるのではないかと思います。</p> <p>峯 氏 研究協議での意見にある「発表時に発言できない児童がいる」とありますが、少人数の中で育ってきたこどもでも発表しやすく、こどもが委縮しない雰囲気や環境づくりが必要です。鍛えて育つものではありません。</p> <p>本嶋氏 高坂小の児童数が多いが故に苦勞が多く、担任の先生も大変そうでした。そのためか、読み書きはできたほうが良いという話が出ましたが、一方、自分の名前が読めれば大丈夫と言ってくださる先生もいたり、先生によっても意見</p> |
|--|--|

| | |
|--|---|
| | <p>が違うので保育園、幼稚園も迷うことがあります。</p> <p>教育長 一学年に何人児童がいるかによって、クラス編成は変わります。一概に児童数が多い学校のクラスだけが、一クラスの児童数が多いというわけではありません。また、先生の配置については、県教育委員会が決めることなので、難しい部分があります。</p> <p>竹内氏 最近不登校になってしまう子どもが多いと聞きます。当園を卒業した子どもの中にも不登校になってしまった子がいると聞き、これは重要な問題だと思います。</p> <p>峯 氏 価値観が多様化し、それに対応しきれていないのではないのでしょうか。多様化した価値観に対応できる環境づくり、その力を育てる幼児教育が求められています。好きな遊びを通して友達と考えて克服していく、結果、困難を乗り越える力になっていくのだと思います。</p> <p>教育長 不登校になってしまう理由は様々ですが、幼児教育の中で、好きなことを徹底的にやり抜き、非認知能力を高め、自己肯定感を培っていく、それが不登校を減らしていく一つの方策になるのではないのでしょうか。</p> <p>峯 氏 しかしながら、幼稚園、保育園での現場では、保育内容に極端な温度差があることも事実です。基本的な生活、生活の中で生まれてくる疑問や数の概念を大切にしている園もあれば、読み書きや算数に力を入れている園もあります。この差を縮めていくことも今後の課題です。我々も幼児教育の本質を伝えていかなければなりません。本日の資料のアンケート結果を参考に、次年度へ反映させていくべきと考えます。</p> <p>中村氏 読み書きについてですが、幼稚園、保育園での指導に差があり、この状況で小学校から「読み書きができたほうがいい。」と言われると厳しいものがあると感じました。また、今日の研修会で「こどものやってみたい」を大切にとありましたが、小学校では教科書をこなしていくのが精一杯な先生もいます。国語と図工の合科学習の話もありましたが、合科学習をするためには、それ相当の準備が必要になります。「こどものやってみたい」を引き出す授業をするのは、</p> |
|--|---|

| | |
|--|--|
| | <p>現場の先生にとっては大きな負担かと思いますが、そうならないと願います。今後、どちらかの学校をモデル校にし、その内容を見学しながら協議を進めていく方法も良いと思います。また、我々、幼児教育の現場においても、こども主体の保育ができていないのか疑問に感じました。</p> <p>眞秀氏 研修会の話にもあった数人での話し合いなどは、小学校の現場ではできているように思います。ローテーブルや畳も生活科室にありますので、環境を整えてあげればできることもあります。ただ、国語は国語に、生活科には生活科の意味がありますので、合科もなかなか難しいかとは思っています。また、幼稚園、保育園から上がってきたこども達が、45分間集中できないこともわかりますが、幼稚園、保育園でどんな保育が行われているか、お互いの理解が必要であると思います。そこには、低学年の担任に限らず、高学年の担任も参加する必要があると思います。</p> <p>峯 氏 確かに、低学年の先生だけが参加したのでは、小学校に広がっていかないと思います。</p> <p>本嶋氏 先日、高校での教員5年目の先生が、当保育園に保育参加に来てくださいました。良い取り組みだと思いました。</p> <p>峯 氏 例えば、園と小学校が連携事業をし、それを幼保小の先生方が参加するなどの具体的な取り組みが、来年度以降、必要になってくると思います。また、昨今「デジタル活用」ということで、タブレットの導入が当然となっているようですが、タブレットも環境のひとつと捉え、タブレットをどうやって深い学びにつなげるのかも重要な課題と考えます。</p> <p>狐塚氏 小さい頃から、タブレット教育が必要なのか疑問に感じています。Wi-Fi環境も必要ですし、破損、故障した場合は自己負担とのことで、負担も大きいご家庭もあるかと思えます。</p> <p>眞秀氏 そのようなご意見もありますが、採点が速やかに行えたり、また、こども達の学習の進捗状況が把握できたりと、こども達に有効な面もあります。</p> <p>岩崎副主幹 特別支援が必要なこどもにはタブレットが有効というデー</p> |
|--|--|

| | |
|---|--|
| | <p>タもあります。しかし、小さい頃から使用していると巧緻性が高まらないこともありますので、幼稚園、保育園では他に優先すべきことがあると思います。タブレットの持ち帰りや活用方法については、学校ごとの判断となっております。数年後には、タブレットの更新も控えていますので、より使いやすくなっていくと思います。</p> <p>峯 氏 タブレットは自然とは正反対のものです。幼児教育の中に入り込み、五感を壊すようなことは避けなければなりません。今後、国の動向等を注視していく必要があると思います。</p> <p>最後に、議題（２）その他ですが、事務局から何かありますか。</p> <p>事務局 事務局より２点報告。</p> <p>①令和６年度第２回幼保小三者連絡会について ②令和６年度第３回幼児教育振興懇談会について</p> <p>座 長 以上２点について、御意見等ございますか。</p> <p>全 員 （意義なし）</p> <p>座 長 ないようですので、御承認いただいたということにいたします。他に何かございますか。</p> <p>事務局 特にありません。</p> <p>座 長 なければ、これで全ての議事を終了しましたので、座長を下ろさせていただきます。御協力ありがとうございました。</p> |
| 4 閉 会 | 事務局 |
| <p>上記会議の顛末を記載した内容について、相違ないことを証します。</p> <p>令和 6 年 8 月 27 日</p> <p>署名委員 _____ 中村 昭司 _____</p> <p>署名委員 _____ 本嶋 郁美 _____</p> | |